

平成29年度 第1回 十勝定住自立圏共生ビジョン懇談会 議事要旨

日時：平成29年8月22日（火）15:00～17:10

場所：とちろ広域消防局 庁舎3階 屋内訓練場

■ 出席委員（23名）

志賀委員（座長）、菊池委員、泉委員、鳥本委員、荒委員、中岡委員、森山委員、白石委員、大林委員、山本美穂委員、高倉委員、吉田委員、仲沢委員、大西委員、宮嶋委員、三浦委員、沼田委員、松原委員、丸山委員、小笹委員、福原委員、松田委員、元木委員、

■ オブザーバー

音更町、士幌町、新得町、清水町、芽室町、更別村、大樹町、幕別町、池田町、豊頃町、本別町、足寄町、浦幌町

十勝町村会、十勝圏複合事務組合、十勝総合振興局

医療・福祉作業部会、教育作業部会、産業振興・地産地消作業部会、環境作業部会、人材育成作業部会、企画作業部会、消費生活作業部会、電算システム作業部会

■ 事務局

安達政策推進部長、河原政策推進部政策室長、竹川政策室政策主幹
藤原政策室主任、村上政策室主任補

■ 会議次第

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 委員、オブザーバー、事務局紹介
- 4 座長、副座長選任
- 5 議事
 - (1) 十勝定住自立圏の概要及び意見交換の進め方について（資料1～3）
 - (2) 十勝管内人口の推移（資料4）
 - (3) 協定項目の進捗状況、委員意見等の検討状況及び意見交換（資料5・6）
 - ①医療福祉作業部会、教育作業部会
 - ②産業振興・地産地消作業部会
 - ③環境作業部会、企画作業部会、人材育成作業部会、幹事会
- 6 その他
- 7 閉会

■ 議事要旨

1 開会

2 挨拶

- 市長より開会挨拶

3 委員、オブザーバー、事務局紹介

- 事務局から、出席委員・オブザーバー・事務局を紹介

4 座長、副座長選任

- 委員互選により、座長に志賀委員（帯広畜産大学）を選任
- 座長の指名により、副座長に橋枝委員（帯広商工会議所）を選任

5 議事

- 委員29名中23名の委員が出席し、過半数に達しており、設置要綱第6条第2項の規定により、会議が成立していることを報告。
- 会議資料の確認

【座長】

それでは、議事に入ります。

本日は、次第にもございますように、十勝定住自立圏の概要、及び意見交換の進め方について確認をした後、24の協定項目の進捗状況や、これまで委員の皆様からいただいた意見の検討状況について事務局から報告し、質疑等を行ってまいります。

なお、発言の際には、挙手をしていただきますよう、お願いいたします。

それでは、はじめに「(1) 十勝定住自立圏の概要及び意見交換の進め方について」を議題といたします。事務局から説明をお願いします。

(1) 十勝定住自立圏の概要及び意見交換の進め方について（資料1～3）

【事務局】

それでは、今回、新たに委員になられた方もおられるので、資料1に基づき、改めて、定住自立圏の概要について説明いたします。

定住自立圏は、自治体の連携を進めるための国の制度で、圏域の中心的な役割を担う中心市と近隣市町村が役割分担し、圏域全体で必要な医療・福祉、教育、産業などの生活機能を確保し、地方への人口定住を進めるものであります。

制度創設の背景として、少子高齢化に伴う人口減少が進行する中で、地方が生き残り、更に発展していくためには、単独の市町村の取り組みばかりでなく、圏域を挙げた連携の取り組みを進め、住民の皆さんが安心して生活できる環境づくりが必要になっていることが挙げられます。

十勝におきましては、平成22年12月に帯広市が中心市宣言を行い、市町村間で議論を重ね、平成23年7月に定住自立圏として取り組む19項目について、議会の議決をいただき、協定を締結しております。その後、平成28年3月には、取り組みを充実させるため、取り組み項目を24項目としております。

また、具体的に取り組む内容について記載している「共生ビジョン」を策定しております。平成29年3月の改訂時には、さらなる進捗管理を行うため、各取組項目で数値目標を設定したところでございます。

この定住自立圏共生ビジョン懇談会は、各分野の地域の関係者の方々に委員に就任いただき、毎

年度、共生ビジョンの改訂を行うにあたってご意見を頂戴することを目的としております。24ある各協定項目や、共生ビジョンを踏まえながら、今後、定住自立圏で取り組むべき事業などについて、ご提案をいただきたいと考えているので、よろしくお願い申し上げます。

次に、資料2に基づき、十勝定住自立圏の概要について説明いたします。資料1と重複する部分は割愛させていただきます。

まず、1枚目の左下に記載しておりますが、十勝定住自立圏は管内全市町村が構成自治体となっております。現在の共生ビジョンは、平成28年度から2期目を迎えており、期間を平成31年度までとしております。

現在、「2. 圏域の概況」のとおり、十勝圏域は、平成12年度をピークに人口減少を続け、4人に1人以上が65歳以上の高齢者となっております。

こうした中、「3」番の4つ目の「■」にあるとおり、圏域の将来像として、十勝のさらなる発展と魅力の向上を図るとともに、医療・福祉など、様々な分野で連携し、子供からお年寄りまで安全で安心して豊かに暮らせる社会を築き上げ、誰もが住みたい、住み続けたいと思える十勝を目指すものとしております。

次のページには、具体的な取組内容を記載しておりますが、十勝定住自立圏では、「生活機能の強化」、「結びつきやネットワークの強化」、「圏域マネジメント能力の強化」の3つの政策分野において、医療、福祉、教育、産業振興、環境、防災、地域公共交通、地産地消の推進、移住・交流の促進、人材育成、データ分析にわたる24項目の取組みを進めております。

例えば、「(1) 医療」では、救命救急センター等の維持・充実に必要な協力や支援、医師や看護師不足などへの対応に取り組んできたほか、「(4) 産業振興」では、フードバレーとかちの推進や広域観光などを進めてきたところであります。

なお、毎年度の共生ビジョンの見直しにおいて、過去には、委員の皆様からの意見などを踏まえ、エゾシカなど有害鳥獣を市町村の範囲を超えて捕獲できるようにしたことなど、新たな取組みを追加してきたところであります。

次に、資料3をご覧ください。左側に、これまでの進捗と今後の予定、さらには本日の進め方を記載しております。これまでの進捗は資料1・2で説明してきたので割愛させていただきます。

今年度は、まず、本日の会議で、24ある協定項目の進捗状況や、これまで委員の皆様からいただいた意見の検討状況について報告させていただき、それに対する質疑を行うとともに、今後の取組みについて意見交換をさせていただきます。10月に予定している次回の会議では、本日のご意見等を踏まえ、共生ビジョンの改訂版の案をお示しし、ご議論いただく予定であり、10月末には、共生ビジョン改訂を行う予定であります。

最後に、資料3の右側で、本日の議論の進め方を説明させていただきます。

まず、昨年同様、全体を3つに区切り、それぞれ「ア」、「イ」の順に進めてまいります。「ア」は、協定項目の進捗状況と、懇談会でいただいたご意見の検討状況について、各作業部会から資料に基づき説明した後、ご質疑をいただくものです。特に、協定項目の進捗状況については、今回から数値目標を活用した評価を行っていることにご留意をいただきたいと思います。

なお、今後についてのご意見・ご提案は、「イ」の中で伺いたいと考えております。具体的には、単独の市町村では対応が難しい事項や、連携によって効果があると考えられる取組みについて、ご意見・ご提案をいただければと思います。

また、本日欠席の委員も含め、追加のご意見があれば9月4日（月）まで募集いたします。本日机上配布した「意見シート」で追加意見をお寄せください。その後、市町村間で協議し、次回の懇談会で共生ビジョンの改定案とともに、考え方をお示しする予定であります。

説明は、以上でございます。

【座長】

ただ今、事務局から、定住自立圏の概要のほか、本日の進め方についての説明がございました。何かご質問やご意見はございますか。

(質問・意見なし)

【座長】

別になければ、事務局提案どおり懇談会を進めることといたします。
次に、「(2) 十勝管内人口の推移」を議題といたします。事務局から説明をお願いします。

(2) 十勝管内人口の推移 (資料4)

【事務局】

資料4をご覧ください。

現在、地方創生の取り組みを進めるに当たり、管内の全ての市町村が将来の人口を示しております。具体的には、2040年の総人口と年齢3区分人口でございます。共生ビジョンには、それらを合算した、十勝の将来展望人口を記載しておりますことから、そこに向かって現在、どのような状況であるかを示すために整理した資料であります。

なお、データは全て、道がとりまとめている市町村の住民基本台帳を基にしたものでございます。

1枚目、3区分人口は0～14歳の年少人口と、15～64歳の生産年齢人口が減少、65歳以上の老年人口が増加の傾向にあります。また、総人口の減少数及び減少率は徐々に拡大傾向にあります。

なお、参考といたしまして、平成29年から毎年、マイナス0.53%弱の人口減少率で推移した場合、平成52年に305,126人となり、去年から今年にかけての減少率が続くと、平成52年には30万を若干下回ることとなります。

2枚目は、道内他圏域と比べて十勝の状況はどうかということを示したものでありますが、増加する石狩地域を除くと全て減少傾向にある中、十勝の減少率は最も小さいことがわかります。

3枚目は、3区分人口を割合で見たものでありますが、年少・生産年齢人口の割合は下がり、老年人口が上昇傾向にあることがわかります。

なお、参考までに道内他圏域と比較すると、年少人口割合12.4%は根室に次いで2位、生産年齢人口割合58.3%は石狩・根室に次いで3位、老年人口割合29.3%は下から石狩・根室に次いで3位となっており、20%台はこの3地域しかございません。

全国平均と比べると、年少人口割合で全国平均を上回るのは根室のみ、生産年齢人口割合で全国平均を上回るのは、石狩のみ、老年人口割合で全国平均を下回るのは石狩のみとなっており、北海道は少子高齢化の進む厳しい状況にあることがうかがえます。

4枚目は、十勝の自然動態、出生者数と死亡者数の差し引きを示したものであります。出生数は減少傾向であるのに対し、死亡数は増加傾向にあります。死亡数の伸びについて、ここ最近鈍化の兆しが見られますが、出生数の減少幅については、バラつきが見られます。

5枚目は、社会動態、転入者数と転出者数の差し引きを示したものであります。こちらは年によってバラつきがありますが、年平均で400～700人の転出超過となっております。

最後、6枚目は、十勝からどこに人が出ていっているのか、十勝へどこから人が入って来ているのかを図で示したものであります。流出は圧倒的に札幌市であり、次に東京圏となっており、ここ最近では札幌市への流出は拡大、東京圏への流出は縮小傾向にあります。

一方で、隣接する地域からは転入超過となっており、日高、オホーツク、釧路は継続して流入、上川はここ2年で流出から流入の傾向に転じたところであります。

以上、現状の管内人口に関する報告とさせていただきます。

【座長】

ただ今の説明について、何かご質問やご意見はございますか。

(質問・意見なし)

【座長】

別になければ、質疑を終了します。

次に、「(3) 協定項目の進捗状況、委員意見等の検討状況、及び意見交換」を議題といたします。

なお、「協定項目の進捗状況」については、今回より、基本目標兼成果指標の実績が示されておりますので、まずは事務局より、その説明をお願いします。

(3) 協定項目の進捗状況、委員意見等の検討状況、及び意見交換（資料5・6）

【事務局】

資料5の見方について、1枚目の上段、医療分野を例に説明させていただきます。

今回の懇談会から、数値目標として基本目標兼成果指標の進捗をお示しし、それに対する進捗評価を行うこととしております。

まず、基本目標兼成果指標については、左の列をご覧ください。形成協定の内容の下に、指標の名称と、薄く色のついた部分に、現状値と目標値のほか、実績値と進捗率を示しております。この進捗率については、4年間で100%に到達させることを目指してありまして、各年度ごとにバラつきは出るが、概ね25%ずつ上昇していれば最終的に100%となりますことから、今回は概ね25%を、順調かどうかの目安としております。

また、真ん中の列に取組状況・進捗状況の評価という欄がありますが、原則、最後の行に、基本目標兼成果指標及びそれ以外の取り組みを踏まえた上で、この取組項目が順調に進んでいるか、さらなる進捗が必要か、現時点での評価を示しております。

右の列につきましては、これらを踏まえた上で、課題や今後の方向性について記載をしているものであります。

左の列に戻っていただき、医療分野の上、取組項目「救急医療体制等の確保」につきましては、救命救急センターの軽症患者の割合を減らすことを指標としており、現状値である平成27年度の67.1%を4年間で64.7%まで下げることとしております。つまり、4年間で2.4%下げることとしており、半分の1.2%下がれば50%。今回、最初の1年間で1.4%下がったことで、進捗率は58.3%まで到達したものです。

次の「地域医療体制の充実」につきましては、管内に就職した看護師の数を4年間で240人とするものであり、仮に実績値が60人であれば、丁度4分の1なので進捗率25%、120人であれば半分なので進捗率50%という形になります。

以上を踏まえつつ、この後の意見交換を行っていただきたいと思うので、よろしくお願い申し上げます。

【座長】

ただ今の説明について、何かご質問やご意見はございますか。

(質問・意見なし)

【座長】

別になければ、はじめに、医療福祉作業部会と教育作業部会について、資料の説明をお願いします。

【医療・福祉作業部会】

はじめに医療分野でございますが、「救急医療体制等の確保」につきましては、「基本目標兼成果指標」を「救命救急センターにおける一次患者の利用割合」としてしております。平成31年度の目標値64.7%に対して、平成28年度実績値は65.7%、進捗率は58.3%でございます。

「取組実績及び進捗状況の評価」ですが、救命救急センターをはじめ周産期医療等を含む不採算部門に対し、管内19市町村による帯広厚生病院への運営費補助を実施したほか、救急医療機関の適切な利用について、各市町村において周知を図ったことにより、救命救急センターにおける一次患者の割合は減少し、適正利用が進んでいることから、取組は順調に進捗していると評価したものです。

「今後の課題及び取り組み」につきましては、引き続き帯広厚生病院への支援を行うとともに、医療機関の適切な利用に関し、各市町村において、ホームページ、広報紙及びチラシなどにより、より一層周知を図っていきたいと考えております。

次に、「地域医療体制の充実」ですが、「基本目標兼成果指標」は「管内に就職した看護師数」であります。平成31年度の目標値4年累計で240人に対し、平成28年度実績値は64人、進捗率は26.7%であります。

「取組実績及び進捗状況の評価」ですが、帯広高等看護学院に対し、管内19市町村による運営費の負担を行い、高等看護学院においては、卒業予定者に管内の公立病院等の情報提供を充実させるなどの取り組みにより、管内の就職者数を毎年60人確保する目標に対し、実績は64人となり、取組は順調に進捗していると評価したものです。

「今後の課題及び取り組み」ですが、医師や看護師などの医療従事者の確保のため、これまでの取り組みを引き続き継続してまいります。

次に、福祉分野でございます。「地域活動支援センターの広域利用の促進」につきましては、「基本目標兼成果指標」を「地域活動支援センター広域利用希望者の受入割合」としております。平成31年度の目標値は100%を維持するというもので、平成28年度の実績値は100%でありました。

「取組実績及び進捗状況の評価」ですが、管内の地域活動支援センターについて、帯広市のホームページに一覧を掲載するなど全市町村で情報共有し、広域利用について促進を図っており、平成28年度は広域利用希望者120名全員が希望通り受け入れされており、取組は順調に進捗していると評価いたしました。

「今後の課題及び取り組み」につきましては、今後も受入割合100%を維持していくため、これまでの取り組みを引き続き継続してまいりたいと考えております。

続きまして、「保育所の広域入所の充実」であります。「基本目標兼成果指標」は「保育所広域入所希望者の受入割合」としており、平成31年度の目標値は受入割合100%を維持することとなっております。平成28年度実績値は100%でございます。

「取組実績及び進捗状況の評価」につきましては、市町村相互での協議・連携により、要保育児童の相互受入を実施しており、平成28年度は9町村間で希望通り受け入れされており、取組は順調に進捗していると評価しております。

「今後の課題及び取り組み」といたしましては、今後も引き続き市町村相互の協議・連携を図り、相互受入を実施してまいります。

最後に、「高齢者の生活支援体制の構築」でございます。「基本目標兼成果指標」は「介護士復職支援事業等参加者数」でございます。平成31年度目標値は4年累計で100人と設定したところでありますが、平成28年度実績値は5人となり、進捗率5%となっております。

「取組実績及び進捗状況の評価」ですが、行政、関係団体、介護職養成校など関係者による意見交換会を実施したほか、高齢者の徘徊に対応するための「見守りシステム」構築に向け、必要な準備を行っており、着実に進捗している取組がある一方、子育てなどにより離職した介護の資格者の復帰に向けた研修会は受講者が少なかったことから、さらなる進捗が必要と評価しております。

「今後の課題及び取り組み」ですが、介護分野の人材確保のため、研修会の実施については可能な限り周知を早く行うとともに、関係者による人材確保に向けた課題の共有などを行ってまいります。

次に、資料6、共生ビジョン懇談会意見等検討状況についてであります。

いただいたご意見のうち、救急医療に関する普及・啓発に関する部分では、救急医療における適切な医療機関の利用を促進するため、管内統一のパンフレットを作成するなどの取り組みを行ってはどうかという意見がございました。

調査・検討の結果、北海道医師会のパンフレットを有効に活用し、新たに統一したパンフレットは作

成しないこととし、定住自立圏の取組としての対象から除かせていただくことといたしました。

なお、各市町村においては、ホームページ、広報紙、パンフレットやチラシを活用し、適正利用の周知を積極的に行っていく考えであります。

次に、「保育所の広域入所の充実」について、広域入所について、保育所だけではなく、幼稚園・こども園も対象とすべきではないかというご意見をいただいております。

現在の検討状況につきましては、児童福祉法に基づき、認定こども園についても広域入所が可能であることから、実際の受入については市町村間で協議を行っていくことになるものと考えており、継続協議といたしました。

次に、「高齢者の生活支援体制の構築」につきまして、介護士不足に対する早急な対応を望むという意見をいただいておりますが、子育てなどにより離職した介護の資格者を対象に、復帰に向けた研修会を平成29年度以降も実施していくこととし、実施にあたっては、管内町村に可能な限り早く周知するなど参加者増に向け取り組んでまいりたいと考えております。

【教育作業部会】

はじめに、「図書館の広域利用の促進」でございます。「基本目標兼成果指標」は「図書館の広域利用登録者数」でございます。平成31年度目標値は35,160人ですが、平成28年度実績値は31,541人となり、進捗率27.5%でございます。

これまでの取組実績につきましては、管内図書館の郷土資料の集約や、住民へ行事情報などの情報提供を行ってまいりましたほか、広域個人貸出事業及び図書相互貸借事業など図書館サービスの向上に向けた事業を実施してまいりました。また、十勝管内公共図書館協議会の研究会や司書部会を開催し、図書館知識の向上や能力の向上に取り組んできたところでございます。

こうした結果、広域利用登録者の実績増につながり、取り組みは順調に進捗しているものと考えております。

今後におきましても、利用者のニーズに応えるため、これまでの取り組みを継続していく必要があると考えてございまして、平成29年度につきましても、継続的に実施してまいる考えであります。

次に、「生涯学習の推進」につきましては、成果指標を「生涯学習関連情報へのアクセス数」としてございまして、平成31年度目標値は47,940件ですが、平成28年度実績値は41,946件となっております。

これまでの取り組みでございますが、各市町村において、ホームページや広報紙、施設内の情報コーナー等による住民への生涯学習施設情報を提供いたしましたほか、圏域住民を対象にした教室、講座等の情報提供を町村から受け、帯広市のホームページで一括して情報発信を行いました。

こうした管内の生涯学習施設の連携により、施設の利用案内や催事、講演会等など、様々な情報を発信し、圏域住民が生涯にわたって学習できる機会を提供でき、十勝の生涯学習情報を一括して発信する取り組みは着実に進捗しておりますが、平成28年度は台風被害に伴い、屋外施設の使用ができなくなったところもあり、アクセス件数が減少したところでございまして、PR等を充実させていく必要があると考えているところでございます。

今後につきましては、生涯学習に対する多様な住民ニーズに応えるとともに、管内施設の利用促進を図るため、わかりやすく幅広い情報発信をはじめ、圏域住民を対象とした事業を継続的に進めてまいりたいと考えております。

最後に、「スポーツ大会等の誘致」であります。成果指標は「管内で開催される国際・全国・北海道大会数」でございます。平成31年度目標値は61大会ですが、平成28年度実績値は58大会となりました。

取組実績といたしましては、全道大会については45大会、全国大会は12大会、国際大会は1大会としたところでございます。近年、管内では660程度の全国・全道レベルのスポーツ大会が開催され、合宿で訪れる団体は、毎年200を超える規模となっており、一定の経済効果につながっておりますものの、平成28年度は台風被害で中止となった大会があったほか、各競技団体との大会に向けての施設調整が難しく、他の道内各市町村で開催が実施された大会もございまして、成果指標が目標値を下回っ

たものでございます。こうしたことから、大会開催数の増加に向けましては、さらなる進捗が必要と評価されるものでございます。

今後につきましては、十勝の地域特性をはじめ、競技施設の立地状況や環境等の優位性を活かしつつ、大きな大会の誘致に向け、各市町村で競技団体等と連携した取組が必要と考えてございます。平成29年度は、管内各市町村で開催されている大規模なスポーツ大会の状況や、スポーツ合宿の受け入れ状況を市町村間で情報共有するとともに、大会等の誘致に関する管内連携を図りまして、施設環境の充実に向け取組を進めてまいりたいと考えてございます。

【座長】

ただ今の説明について、ご質問等があればご発言をお願いいたします。

【委員】

スポーツ大会の誘致について説明がありましたが、今年はどうなのか、盛り返してきているのか、状況をお伺いしたいと思います。

【教育作業部会】

例えば、去年は台風の影響でクロスカントリースキー大会が実施できませんでしたが、今年度の再開に向けて協議を行っているところであります。

【座長】

ありがとうございます。他にございますか。

他になければ、質疑を終了いたしまして、医療福祉と教育について、今後の進め方に関するご意見やご提言を伺いたいと思います。どなたからでも結構ですので、ご発言をお願いします。

【委員】

先ほど人口減少の説明もいただきましたが、やはり原因は子どもの減少であります。

事情は色々あると思いますが、教育費にお金がかかるということがあります。貧困対策で子ども食堂をやっているところもありますし、管内でも上士幌町などはふるさと納税を活用して色々取り組んでいます。具体的などのような取組が行われているのかということをお伺いしたいのと、もっと十勝全体で子育て支援を考えてはどうかと思いますがいかがでしょうか。

【事務局】

教育費の関係でございますが、本日上士幌町の担当者が欠席でありますので、次回までに、管内でこういった取組があるのかはお知らせしたいと思います。

【医療・福祉作業部会】

現在、国で幼児教育の無償化に向けて取組を本格化させているところであり、本年度中に財源の目途を立てるとのお話も出てきたところでございます。

今年度は北海道で、一定の収入に満たない家のお子さんについて、3歳以下限定ではありますが、保育料の軽減等が進められており、各市町村もこうした動きに合わせて子育て支援に取り組んでまいることになるものと考えております。

【座長】

他にございますか。

【委員】

今の意見に関連しますが、子どもを産み育てられる年代の方が十勝に定住する、住み良いまちに

なるかが重要であります。子どもたちや女性が十勝に住んで良かったと思えるような政策を積極的に打ち出していきたいと思えます。

年配の方々が若い人を支えていく取り組みが必要になってくるものと思っています。

それから、先ほど3歳児の無料化といった話がありましたが、高校・大学・専門学校に進学する際は莫大な金額がかかります。そのときに市町村で手助けできる方法はないのか、考えていく必要があるかなと考えております。

今までにはない政策になるかと思いますが、できる範囲でご検討いただければと思います。

【事務局】

地域全体で子育てを支えていくということは、やはり重要になってくるものと考えております。

定住自立圏ということで、帯広市と18町村で連携できることをやっていくための議論を行っておりますが、それぞれの市町村の人口対策というところでは、今、地方創生と言われておりますが、子育て支援を自治体ごとに進めている部分もあります。その中で、保育料の軽減ですとか、ご指摘のありました大学進学の際の奨学金制度なども設けているところもあるかと思えます。

一つの自治体で難しいことは、全体で取り組む、連携できることは行ってまいりたいと考えておりますが、教育費の軽減という、お金を直接どうにかするところまではなかなか難しい部分もあるのかなと思っております。今、取り組んでおります、保育所の広域入所ですとか、こうした連携はしっかりと行っていく考えです。

【座長】

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

【委員】

釧路には遊学館という子どもから大人まで楽しめる施設があり、色々な体験も行われています。雨の日など、子どももお母さん方も楽しめる環境があれば、楽しく子育てができるのではないかと思います。

保育園でも独自で提供しているものがありますが、何か考えていただければと思います。

【医療・福祉作業部会】

帯広市では保育所に子育て支援センターの機能を設けているところがあり、保育所に入っていないお子さんや保護者の方にも来ていただいて、遊びもそうですが、子育てに関する悩みに対応するというのもやっております。

センター以外でも、保育所を地域に開放させていただいているところもあります。他の自治体でも様々な取り組みが進められていると思いますが、こうした取り組みを充実させていくことで子育て家庭の負担を軽減してまいりたいと考えております。

【座長】

どうもありがとうございます。時間の都合もありますので次に進ませていただきたいと思います。次に、産業振興・地産地消作業部会について、資料の説明をお願いします。

【産業振興・地産地消作業部会】

はじめに、「農商工・産学官連携及び地域ブランドづくりの推進」であります。成果指標は「十勝産機能性素材を活用した新商品開発数」としております。平成31年度目標を9件とさせていただき、平成28年度実績値は6件となりましたので、進捗率は66.7%でございます。

実績につきましては、とち財団と域内外事業者との連携による機能性素材の抽出実証試験を実施しましたほか、地域事業者との連携による機能性素材を活用した新商品開発を進めました。また、北海道大学との連携によるブドウ生産及びワイン製造に係る取組みを実施いたしました。

こうした取り組みが様々進んでおり、順調に進捗していると評価しているところでございます。今後におきましても、地域産業の活性化につながる様々な連携を行ってまいりたいと考えております。

次に、「フードバレーとかちの推進」でございます。成果指標は「フードバレーとかち応援企業数」でありまして、平成31年度目標値は440件、平成28年度実績値は391件で、進捗率は3.8%でございます。

2期ビジョンから地域産業の活性化に資する人材育成に取り組むこととしており、取組実績におきましても、とがち・イノベーション・プログラム、「100人のイノベーターが描く十勝ドリームマップ会議」、十勝人チャレンジ支援事業の実施などを記載しております。十勝の将来の産業界をリードする人材の育成に資する事業を通し、事業の拡大や起業・創業につながる事例ができたことなどから、取り組みは順調に進捗していると評価しているところでございます。

今後の課題といたしましては、認知度の向上のほか、事業者の方々と連携し、地域の付加価値向上に向けた効果的な事業化支援が必要と考えております。

次に「企業誘致の推進」であります。成果指標は「十勝管内の企業立地件数」であり、平成31年度目標値は56件、平成28年度実績値は27件、進捗率は48.2%でございます。

十勝地域産業活性化協議会において、企業誘致活動を実施しており、企業立地件数は順調に推移しておりますことから、取り組みは順調に進捗していると評価しております。

次に、「中小企業勤労者の福祉向上」であります。成果指標を「とがち勤労者共済センター加入会員数」とし、平成31年度目標値は8,000人、平成28年度実績値は6,957人、進捗率は30.0%でございます。

取組実績といたしましては、様々なPR活動を通し、加入促進を図ったことで、事業所数、会員数ともに増加となり、取り組みは順調に進捗していると評価しているものでございます。

しかし、中小企業を取り巻く厳しい経済状況を背景に、経費節減等の事情で退会する企業がございます。より一層働きやすい環境づくりに向け、とがち勤労者共済センターの事業内容の周知等を通し、加入促進に継続的に取り組む必要がありますことから、今後も引き続き取り組みを進めてまいります。

次に、「広域観光の推進」であります。成果指標は「十勝管内の観光入込客数」としており、平成31年度目標値は1,020万人、平成28年度実績値は956万人でございます。

昨年は台風があり、観光にも大きな影響がございました。一方、取り組みといたしましては、平成28年度からアウトドアを地域資源として位置付け、「ファーム」「サイクル」「アウトドア」の3つの事業を推進したほか、道内中核都市、東北海道3市の連携事業、広域観光周遊ルート事業を実施するなど、幅広く進めることができたことから、取り組みは順調に進捗していると評価したものでございます。

次に、「農業振興と担い手の育成」でございます。成果指標は「担い手向け研修会への参加者数」で、平成31年度目標値は50人、平成28年度実績値は17人、進捗率は13.2%でございます。

地域内では様々な研修が行われておりますが、成果指標に設定した担い手向け研修会の参加者数は今後も増やしていく必要があることから、さらなる進捗が必要と評価しております。

次に、「鳥獣害防止対策の推進」でございます。成果指標は「鳥獣害による農業被害額」で、平成31年度目標値は645百万円、平成28年度実績値は649百万円、進捗率は96.5%でございます。

隣接する自治体間におけるエゾシカとヒグマの越境捕獲が可能となり、市街地または町村間に出没するヒグマ対策が速やかに行われるようになったことなどにより、有害鳥獣による農業被害額が減少し、目標達成に向けて順調に推移しているところでございます。

次に、「地産地消の推進」でございます。成果指標は「地産地消関連ホームページへのアクセス件数」でありまして、平成31年度目標値は10.1万件、平成28年度実績値は8.7万件、進捗率は6.7%でございます。

取組実績として、管内直売所マップを市ホームページで周知したほか、フードバレーとかち推進協議会のホームページで管内市町村が開催する地産地消イベントを周知いたしました。こうした取り組みを通して、地産地消関連ホームページへのアクセス件数が増加傾向となり、地元の食への理解が徐々に浸透されてきていると考えますが、開設から一定年数が経過し増加率が低減傾向にあることなどから、目標値に対して低い進捗率にとどまっており、さらなる進捗が必要と評価するものであります。

最後に、資料6について説明いたします。

まず、流通・物流に関するご意見をいただいております。大消費地から遠距離にある地理的デメリットについては地域事業者共通の課題でありまして、これまでも民間事業者による小口輸送の混載化や、試験研究機関と金融機関との連携による賞味期間延長を目指した包装材の比較試験など、物流コストの軽減を目指した取組みが行われています。

定住自立圏の取り組みといたしましては、事業者や試験研究機関等との連携の下、域内外の流通業界の情報収集はじめ包装技術向上の検討等、物流改善につながる取り組みを進めているところであり、今後ともこうした取り組みを進めてまいりたいと考えております

続きまして、農業者限定のけん引免許の創設を自動車学校に働きかけるなど、何らかの方策を考えられないか、というご意見をいただいております。

こちらにつきましては、他県の農業大学の取組状況や農業団体からの要望も踏まえ、一般農業者についての農業用限定のけん引免許研修の実施の可能性について、平成29年度より道農政部及び農業大学校へ地域の声を伝えながら協議を進めており、現在、先方が検討を行っているところであります。

【座長】

ただ今の説明について、ご質問等があればご発言をお願いいたします。

【委員】

農業を取り巻く環境は、後継者など担い手不足が深刻な問題になってきています。

それから、十勝の自給率は千何パーセントと言われておりますが、付加価値をつけるために加工に力を入れていかななくてはならないと思うので、ここをしっかりとお願いしたい。

人口減少という話もありましたが、優秀な人は外に出て行ってしまいますので、地域の産業を強化して、若い人に残ってもらえるよう取り組んでもらいたい。

【座長】

ありがとうございます。ご意見かと思えます。ご質問のある方はいらっしゃいますか。

【委員】

企業誘致の実績値27件とありますが、業種ですとか場所はわかりますでしょうか。

【産業振興・地産地消作業部会】

本日、手元に資料がございませんので、詳細は次回お伝えしたいと思っておりますが、1市3町を中心に立地がされているところでございます。

【委員】

地産地消のホームページアクセス件数が伸び悩んでいる理由はどのように押さえていらっしゃるか。

【産業振興・地産地消作業部会】

原因については分析しておりませんが、十勝の農業者の先進的な取り組みなど掲載させていただ

いており、一昨年度以前は少しずつ伸びてきていたところであるので、今後もアクセス数増加に向けてしっかりと取り組んでまいりたい。

【座長】

ありがとうございました。それでは、次に、産業振興・地産地消について、今後の進め方に関するご意見やご提言を伺いたいと思います。どなたからでも結構ですので、ご発言をお願いします。

【委員】

十勝川温泉でチーズ工房をやっているところです。この地域では様々な方が色々な取り組みを進めていますが、こうした様々な力を結集して外へのアピールを進めていければと思うので、ご検討をお願いしたいと思います。

【座長】

一つ一つ答えていければと思うのですが、時間の都合もありますので、ご意見として承らせていただきまして、次回、事務局の方からお答えさせていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

その他、皆さんからご提案等ございましたらお願いいたします。

今の隙に申し上げておきますが、帯広畜産大学は府県から来た人の数よりも少ない数しか、卒業後は府県の方に行っておりませんので、北海道に残っておりますから、少しは貢献しているということをおきたいと思えます。

他になければ、産業振興・地産地消部会の意見交換を終了いたしまして、次に、環境作業部会、企画作業部会、人材育成作業部会、及び幹事会について、資料の説明をお願いします。

【環境作業部会】

環境作業部会では圏域全体でCO₂を削減し、低炭素社会の実現に向けて取り組んでおります。成果指標は「広域連携啓発事業参加者数」であります。取り組みとしては、講演会などによる環境意識の啓発や、省エネ機器の導入などを行っております。

平成31年度までに1,300人の参加者数を目指すこととしておりますが、平成28年度は1,100人、進捗率は3.4%となっております。評価でございますが、進捗率などを踏まえまして、さらなる進捗を必要としているところであります。

課題といたしましては、家庭部門からの排出量は依然として多いことから、引き続き環境意識の啓発や、機器の導入促進に取り組んでいく必要があると考えております。

今後の取り組みといたしましては、とちかち・市民「環境交流会」2017において、圏域自治体が連携し、環境意識の啓発に向けたパネルの展示等を行おうとしているところであります。また、管内自治体職員により、とちかち市町村一斉ノーカーデーを実施してまいります。

次に資料6になりますが、数値目標の必要性や取り組みを推進するためにインセンティブが重要ではないかのご意見をいただいております。これにつきましては、とちかち市町村一斉ノーカーデーにおいて、マイカー通勤自粛による二酸化炭素削減に加え、経費削減や健康増進、飲酒運転防止などの面からも効果があることもPRしていきますほか、数値目標の設定については、平成29年3月の共生ビジョン改定に伴い、全ての取組項目に「基本目標兼成果指標」を設定したところであり、環境分野では「広域連携啓発事業参加者数」を採用したところです。

【企画作業部会】

はじめに、「航空宇宙産業基地構想の推進」でございます。成果指標は「出展イベントにおけるブース来場者数」でございますけれども、基準値を平成28年度の実績値としておりますので、検証は次年度からになります。

取組実績といたしましては、各種イベントへの出展による普及啓発活動のほか、中央官庁等への

航空宇宙に関する要請活動を行っております。今後におきましても、オール十勝での取り組みのさらなる推進を通しまして、地域を挙げて機運の醸成を図ってまいります。

続きまして、「地域防災体制の構築」でございます。成果指標は「自主防災組織数」でございます。前年度から増加しておりますけれども、進捗率は4.2%でございます。

取り組みといたしましては、自主防災組織の育成や災害時の民間企業との協定締結を行っておりますほか、昨年度は台風災害を経験いたしまして、意見交換や課題の共有を進めております。

今後は、災害備蓄品の充実や自主防災組織の育成支援、民間企業やボランティア団体等との連携強化を行ってまいりたいと考えているところでございます。

続きまして、「地域公共交通の維持確保と利用促進」でございます。成果指標は「十勝管内バス利用者数」でございますが、前年から4万人ほど減少しております。

これまでの取り組みを通して、管内における利用促進や、バス交通の維持・確保が図られてきたと考えておりますが、人口減少等に伴い経営環境は厳しいものとなっております。生活交通路線を維持・確保していくため、住民にとってより使いやすいバス交通体系の実現と利用促進に取り組むとともに、交通事業者等と連携しながらまちづくりや観光等に寄与する取組を促進する必要があると考えております。

次に、「移住・交流の促進」でございます。成果指標は「移住者数」でございますが、前年度よりも54人増加しております。進捗率は目安となる25%を上回っているところでございます。

取組実績といたしましては、十勝圏複合事務組合と連携して一体的な情報発信を強化しておりますほか、帯広空港、競馬場、帯広駅に各市町村のパンフレットを設置いたしまして、こうした取り組みが移住者数の増につながったものと考えております。

今後も、移住希望者等に圏域の情報を発信する機会の充実を図ってまいりたいと考えております。

最後になりますけれども、「結婚を希望する若者の支援」でございます。成果指標は「北海道結婚支援ホームページへのアクセス件数」でございますが、こちらは基準値が平成28年度の推計値となっておりますので、検証は次年度からになります。

取組実績といたしましては、各自治体が北海道の結婚支援ネットワークに参画いたしまして、それぞれ婚活イベントや交流会を実施しているところであります。今後におきましても、結婚を応援する管内の気運を高めることで、若者の希望をかなえられる地域づくりを進めてまいりたいと考えております。

【人材育成作業部会】

「職員研修及び圏域内人事交流」について説明いたします。基本目標兼成果指標は「職員研修（特別研修）参加者数」であります。可能な限り多くの職員に研修の機会を提供しまして、参加してもらうことが重要でありますことから、平成27年度の現状値に対しまして、1割増を目標値としております。実績値は460名ということで、前年度から1名減となりました。理由といたしましては、効果的な研修が提供できなかったこと、台風被害により不参加率が増加したことが影響しております。よって、参加者の増加に向けてさらなる進捗が必要と評価しております。

今後の課題及び平成29年度の取り組みといたしましては、広域研修で養う能力を明確化するとともに、これを段階的に修得できるよう、3か年の研修計画を作成し、職員研修を体系的かつ計画的に実施するほか、おすすめ研修を提案するeセルフチェックシステムを開発するなどして、研修への参加意欲を喚起し、参加者数の増加につなげてまいります。

【幹事会】

「圏域レベルのデータ集積・活用」は、定住自立圏の他の取り組みが効果的に進むよう、様々なデータを集め、分析を行い、報告書を1件作成するというものです。

現在、データを集め、できるところから分析をはじめているところですが、報告書の完成には至っておりません。引き続き、31年度の完成に向け取り組んでまいります。

【座長】

ただ今の説明について、ご質問等があればご発言をお願いいたします。

(質問・意見なし)

【座長】

別になければ、次に、今後の進め方に関するご意見やご提言を伺いたいと思います。どなたからでも結構ですので、ご発言をお願いします。

(質問・意見なし)

【座長】

なければ、全体を通して、みなさんからご質問、ご意見等があれば伺いたいと思います。何かございませんか。

【委員】

今回、実績値や指標などを出していただいて、大変わかりやすかったのですが、そもそも定住自立圏自体が、私は委員をやっておりますので何となくわかっておりますけれども、たぶんみんな知らないですね。

言葉が難しいのか、何をやっているのかわからないということだと思いますが、どんなPRをしているのか。もっとPRをした方がいいと思うのだが、どういう考え方をしているのか。

【事務局】

おっしゃる通り難しい言葉、仕組みであると思います。

そういうこともございまして、今回、新たな委員もいらっしゃいますので、どういう制度かということの説明させていただきました。

それから、PRということでは、会議の資料ですとか、皆様からご発言いただいたことを帯広市のホームページに掲載しておりますが、それだけで十分伝わるかということ、ご指摘のとおり難しいものと考えております。

今の時点でどうするかという答えは持ち合わせておりませんが、今後どのようなPR方法が良いのか、事務局を中心に検討させていただきます。

【座長】

他になければ、本日の意見交換を終了させていただきます。事務局におかれましては、本日いただいたご意見等についてご検討をいただき、次回懇談会において対応の考え方などをご提示いただくようお願いいたします。

次に、「6 その他」に入ります。事務局から説明をお願いします。

6 その他

- 事務局より、今後の流れ（意見シート、次回日程（10月予定））、謝礼の支払い、メンバーの提出等について説明

【座長】

ただ今の説明に関して、ご質問等はございませんでしょうか。

(質問・意見なし)

【座長】

別になければ、事務局からは以上といたします。

委員の皆様から、全体を通じて確認、あるいはご質問等ございましたら、ご発言願います。

(質問・意見なし)

7 閉会

【座長】

以上をもちまして、本日の会議の日程は全て終了いたしました。

円滑な会議運営にご協力いただき、誠にありがとうございました。

これもちまして、第1回目の懇談会を閉会いたします。本日はお疲れ様でした。